

避難の方法・避難所について

避難は学校や公民館といった指定避難所・指定緊急避難場所への移動だけではありません。住んでいる地域やその時の状況、人によって方法は異なります。普段からどう行動するか決めておきましょう。

■自宅の外に避難

- 町が指定した避難所・避難場所
- 安全な親戚・知人宅
- 安全なホテル・旅館
(通常の宿泊料が必要です。ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。)



■自宅にとどまる(在宅避難)

ハザードマップで自宅にいても大丈夫か確認する必要があります。

- 土砂災害警戒区域に入っていないこと
- 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないこと
- 浸水深より居室が高いこと
- 水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にあること



■緊急安全確保

自宅の外に避難する必要がある居住者等が、適切なタイミングで避難をしなかった等により避難し遅れたために、災害が発生・切迫し、立退き避難を安全にできない状況に至ってしまった場合に、立退き避難から行動を変容し、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等することが「緊急安全確保」です。



- 自宅の少しでも高い場所に移動
- 近隣の少しでも高い建物に移動
- 崖から離れた部屋に移動

避難所について

避難所ではルールやマナーを守りましょう

- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、喫煙場所、ペット同伴の可否など避難所のルールを守りましょう。
- ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声をあげたりするのはマナー違反です。

役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受付や清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- みんなで助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



ペットの避難～飼い主が備えておくべきこと～

ペットの同行避難は各避難所に定められたルールに従いましょう。避難者がいるスペースから離れ、決められた場所につないだり、持参したケージ(おり)やキャリーバッグ等に入れたりするなど、飼い主が責任を持って世話をしましょう。

■災害時の心構え

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人などさまざまな人がいるので、周りの人に配慮しましょう。



■ペットのしつけと健康管理

普段からケージやキャリーバッグ等に慣れさせておき、決められた場所で排泄ができるようにしておきましょう。また、予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。

■ペットの避難用具・備蓄品の用意

食料、リードやキャリーバッグ等、避難先での飼育に必要なものを予め用意しておき、できれば7日分持参しましょう。

